

大木町図書・文化等拠点施設整備

特徴	基本方針	成果
<p>町民参画による成長から成熟するまちづくり</p> <p>本計画は、図書・文化等の拠点施設を平成19年度、20年度に町民主導で行った地域再生の取組みである。計画では、従来の住民参加型まちづくりの仕組みをさらに発展させ、徹底した情報公開と町長の代表である町民委員会主導の企画・運営によるまちづくりを実現するために企画・技術・運営面から行政、コンサルタントがサポートを行った。</p>	<p>基本理念(テーマ)</p> <p>子供からお年寄りまで気軽に集える生涯学習の場</p> <p>3つの機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.多世代が学ぶ交流・情報機能 2.多世代が集い交流できる場所・教室・ホール機能 3.多世代が学びあふ交流する複合施設機能 <p>高道施設との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就業支援センター ○総合体育館2アリーナ ○多目的センター <p>ワーキング</p>	<p>(1)「もったいないの心」による施設の再生 3つの公共施設をリニューアルし、図書をはじめ様々な情報を提供する300人以上収容可能なホール、生涯学習活動やボランティア活動などの支援機能、図書・情報機能、町民活動支援施設として、生まれ変わり、相互に連携を深めた計画づくりができた。</p> <p>(2)地域住民と行政との協働意識の芽生え 町民参画のプロセスを共有し、「自分たちの町は自分たちで作っていくしかない」という意識が高まり、成熟したまちづくりに向け大きな一歩を踏み出すことができた。</p>

